

阪神・淡路大震災3年の軌跡

1995年（平成7年）		
	午前5時46分、阪神・淡路大震災!!	1月17日
3日目	政府が緊急対策本部を設置	19日
4日目	仮設住宅の建設着工	20日
7日目	鉄道不通区間の代替バス・臨時旅客船の運行開始 停電が復旧、避難者数がピークに（31万人）	23日
11日目	中国自動車道が全線開通	27日
14日目	JRが明石方面より神戸駅まで乗り入れ	30日
15日目	電話復旧ほぼ完了、明石・尼崎で水道復旧	31日
31日目	神戸市営地下鉄全線復旧	2月16日
36日目	◎JATA義援金を日本赤十字社へ寄託	21日
41日目	西宮市・芦屋市で合同慰霊祭	26日
44日目	三宮地下街（さんちか）営業再開	3月1日
48日目	神戸市・尼崎市・宝塚市で合同慰霊祭	5日
56日目	阪急電鉄が三宮へ一部乗り入れ	13日
74日目	仮設住宅3万戸が完成	31日
75日目	JR・東海道線が復旧 ◎被災したJATA会員の95年度の会費を免除	4月1日
82日目	JR・山陽新幹線が復旧	8日
85日目	ガス、復旧完了	11日
91日目	水道、復旧完了	17日
101日目	自衛隊が撤収	27日
104日目	神戸港コンテナバース一部復旧、24時間荷役開始	30日
118日目	◎JATAふれあいクルージングに被災者1,500名を招待	5月14日
147日目	阪急電鉄、全線開通	6月12日
161日目	阪神電鉄、全線開通	26日
180日目	◎ヒルトン・ホテル/JATA奨学義援金を会員子弟に贈呈	7月15日
196日目	ポートアイランドへの足（ポートライナー）が全線復旧	31日
207日目	仮設住宅4万8,300戸が完成	8月11日
209日目	神戸高速鉄道・新開地～長田間が開通（私鉄で大阪～姫路間つながる）	8月13日
219日目	六甲アイランドへの足（六甲ライナー）が全線復旧	23日
225日目	◎近畿運輸局長よりJATAの義援活動に感謝状を授与	29日
228日目	阪神高速・湾岸線が全面復旧	9月1日
253日目	◎JATA、異人館復興のため「北野、山本地区をまもり、そだてる会」に義援金（残額）を寄託	26日
333日目	神戸ルミナリエ開催	12月15日
1996年（平成8年）		
366日目	震災1周年	1月17日
399日目	阪神高速・神戸線の摩耶～京橋間が一部開通	2月19日
548日目	神戸まつり再開	7月17日
623日目	阪神高速・神戸線が全線開通	9月30日
696日目	第2回目の神戸ルミナリエ開催	12月12日
710日目	消防庁が震災による死者を6,425人と修正発表	12月26日
1997年（平成9年）		
732日目	震災2周年	1月17日
803日目	風見鶏の館が復旧し、一般公開を再開	3月29日
854日目	神戸港の復興宣言	5月19日
1000日目	神戸市長選の告示	10月12日
1014日目	神戸市長選で笹山市長が三選	10月26日
1061日目	第3回目の神戸ルミナリエ開催	12月12日

被災状況一覧(震災直後)

会社名	支店・営業所名	店舗状況	営業状況	スタッフ人数	
				震災時	現在*
(株) アミューザ	神戸支店	入居可、一部損壊	営業不可	8	6
(株) エスプリツーリスト	神戸本社営業所	入居可	営業不可	9	7
エムオーエアシステム (株)	神戸営業所	立入禁止	大阪支店で対応	6	6
川崎航空サービス (株)	神戸支店	入居可、半壊	営業不可	15	13
近畿日本ツーリスト (株)	神戸海外旅行支店	一部損壊	2月初旬より営業可	20	11
	神戸支店	全壊	営業不可	48	35
コープ観光 (株)	本社・本社営業所	全壊	営業不可	52	33
(株) 神戸観光	神戸営業所	入居可	営業可	11	8
	西宮営業所	入居可、半壊	営業可	4	3
神戸新聞旅行社	本社	全壊、一時立入可	営業不可	17	11
(株) 国際ツーリストビューロー	本社営業所	半壊	営業不可	16	12
(株) 山陽交通社	神戸支店	半壊、入居可	営業可	3	4
	三宮営業所	入居不可、半壊	営業可、のち不可	2	3
	垂水営業所	入居不可	4～5日間営業不可	3	3
	明石支店	入居可	営業不可	6	6
	姫路支店	入居可	営業可	6	6
神姫観光 (株)	神戸営業所	立入禁止、一部損壊	営業不可	9	6
(株) 神港ツーリスト	本社	半壊	営業不可	8	8
神鋼トラベルサービス (株)	本社営業所	全壊	営業不可	21	22
神鉄観光 (株)	本社	入居可	営業可	25	21
	三宮営業所	立入禁止、半壊	営業不可	2	1
東急観光 (株)	神戸支店	立入禁止	営業不可	39	30
東武トラベル (株)	姫路支店	良好	営業可	16	14
西鉄旅行 (株)	神戸支店	2月1日より入居可	2月1日より営業可	13	14
(株) 日本交通公社	神戸三宮支店	立入禁止	営業不可	100	100
	団体旅行神戸支店	入居可	営業可	47	50
日本通運 (株)	神戸旅行支店	立入禁止、全壊	営業不可	23	20
(株) 日本旅行	神戸海外旅行支店 神戸教育旅行支店 神戸支店	立入禁止、 ビル内装半壊	営業不可	90	61
(株) 農協観光	兵庫総合営業所	入居可	営業不可	11	10
(株) 阪急交通社	神戸支店	全壊	1月30日、新事務所にて再開	30	32
	三宮支店	全壊	店舗閉鎖、神戸支店に統合		
阪神電気鉄道 (株) (阪神航空)	神戸営業所	立入禁止	2月1日より可	9	9
(株) ヒット カンパニー リミテッド	本社営業所	一部損壊	営業不可	12	6
ブルームツーリスト (株)	関西本社営業所	立入禁止、全壊	営業不可	12	10
名鉄観光サービス (株)	神戸支店	一部破損	営業可	19	17
郵船トラベル (株)	神戸営業所	全壊	営業不可	20	27
	尼崎出張所	入居可	営業可	4	5
(株) 読売旅行	神戸営業所	立入禁止、全壊	営業不可	24	17

*97年11月現在

発刊にあたって

未曾有の災害をもたらした阪神・淡路大震災から、もうすぐまる3年を迎えようとしています。

既に、あの忌わしい記憶は、この3年の時の経過と共に風化しつつあります。「震災の記録」を残そうという話が神戸地区会の幹事会で持ち上がった時、今更、なぜ？ 何のために？ という議論は当然出て参りました。既に時を逸しているのでは…という思いが担当スタッフそれぞれにありました。しかし、そうした謗りは免れないにしても、あの震災は、決して風化させてはならない。やはり記録に留めておくべきである。それが被災した私たちの使命であり、今が最後のチャンスではないか、と考えるに至りました。

どんなに語っても語り尽くせないあの日、あの瞬間の、戦慄。恐怖。茫然自失。絶望…。そして、復興への苦難の体験…。思い出すだにおぞましい記憶をできる限り記録に留めておこう。そこで得た貴重な体験、教訓を伝えていこう。それが皆様から得た温かいご支援に応える道でもあり、また、いつか、どこかで同じ災難が降りかかった時、何等かの役に立てば、との思いで発刊を決意致しました。

被災地を除けば今やほとんどマスコミも取り上げなくなっていますが、被災地の現状はまだまだ厳しいものがあります。

鉄道、高速道路、港湾など産業基盤のハード面は何とか復旧しておりますものの、今なお、遊休地や公園を仮設住宅が占拠し、再建する力もなく放置されたままの更地が、市街地のあちこちに点在している姿には、未だ道遠しの感を強くいたします。

全体的に言えば80%の復興状況と言われておりますが、その内容を見ると、先頭は完全に復興しており、最後尾はまったく手つかずのままという、その状況には格差が大きく、その隊列の帯は細く長くなっております。

なかでも観光、飲食、小売、商業などの業種は、震災の後遺症が色濃く残り苦境に立たされています。ただ、神戸を訪れる観光客は少なくとも、神戸から観光に出かける顧客は震災前に戻っており、観光事業に携わる私たちにとっては一つの明るい材料となっております。旅には“苦しい時は癒しの一時として、嬉しい時は喜びを倍加させるものとして”、私たちにとって無くてはならない要素となっている事を再認識させられると同時に、しっかりやれよ！と、励まされている思いがいたしております。

震災直後、どう対応したのか。社員は。事務所は。会社経営は。それぞれの会社のそれぞれのギリギリの対応がありました。それが巧くいったとは決して言えません。失敗も多くありました。ああすれば良かった、こうすれば…ということも数多くあります。ラッキーだったこともあります。それら一つ一つがこの記録にまとめられております。生の体験記録が、教訓となり、今後の危機管理につながることを祈念する次第であります。

最後に、本記録の発刊までには戸惑いや障害もあり、本業で忙殺される中、情熱を傾け続け、発刊までに漕ぎ着けた担当スタッフの皆さんに心からの敬意を表しますと共に、資金面を始め、全面的に支援していただいたJATA本部及び関西支部。編集、発行に関しご教示、ご尽力を賜ったトラベルジャーナル関西支局。その他、ご協力をいただいた多くの方々に心から御礼申し上げます。

JATA関西支部兵庫地区会代表幹事
神戸新聞旅行社 山本祥二郎

発刊によせて

大阪へ転勤して半年近くになろうとしている時、神戸の阪急交通社藤森支店長からお電話をいただきました。内容は97年度のJATA兵庫地区会の事業計画として阪神大震災の記録を制作し、全国の旅行業に働く者にとって今後の危機管理に参考になるような記録集としてまとめてみたいとのことでした。当時の代表幹事として、一筆お願いしたいとのことですが、震災から二年半が過ぎた今、当時を思い出しながら書くことは難しいものです。本来なら私が代表幹事の時に取り組むべきテーマであったと大変反省をしているところです。現在の実行委員会のみなさまに敬意と感謝を申し上げます。

1995年1月17日午前5時46分は私にとって一生忘れることのできない日時となりました。初めて身をもって地震の恐ろしさを体験しました。台風のような予測しながら対応できる自然災害と違い、予知できない一瞬のうちに襲ってくる大地震の怖さは、人間として防ぎきれないものでした。旅行業は平和と安全の中にあってこそ、栄えることのできる産業であることを思い知らされました。

地震後の三宮界隈の姿を見て、これで当分神戸からは旅行に出かけるお客様はなくなったと思いました。あまりにも大きすぎる大災害のため、今後の対策を考えるにも今までの経験をもって判断できる状況ではありませんでした。電話がつながらない中での社員家族の安否の確認。お得意様の状況把握。出発を控えたお客様との連絡体制等、手配書を失った中での連絡確認作業は、大変なものでした。具体的には各社の状況報告の中で、明らかになると思います。

全国のJATAのみなさま、旅行関連のみなさまからのご支援に、どれだけ勇気づけられたか計り知れません。震災後の中で、心のあたたかさ、人への思いやりが人間社会にとって、いかに大切なものであるかを大震災を通して身をもって教えられました。

JATAの代表幹事としての役割を、私は果たすことができませんでした。JTBの支店長としての責務に没頭していたのが現状であったと思います。ただ震災復興の中で、JATAの存在感とJATAの必要性の課題が、兵庫県の地域社会の中で浮かびあがりました。震災復興に取り組んでいる人達の中で、旅行エージェントの名前は知っていても、JATAの名前はほとんどの方々が知りませんでした。これでは業界の存在が問われると思い、私はJTBの支店長からJATA兵庫地区会代表幹事としての名前を多く使用するようにしました。観光復興の会議等もJATAの地区代表幹事で出席しました。

少しずつJATAの存在が、相手方に見え始めました。兵庫県にどうすれば旅行者が来ていただけるか、誘致PRの在り方、集客促進、観光政策の在り方等、相談いただけるようになりました。兵庫県を訪れる観光客の伸びが、いかに地域振興に大きく寄与しているか、流動人口である旅行者の集客力がいかに大事であるかが、理解されてきました。JATAの存在は、あらゆる業界の中の一つの組織として、21世紀の観光交流時代の業界代表として、国民に認められる努力を続けていかなければならないことを、地域社会の中で、大震災を通して学びました。

JATA兵庫地区会が、大災害を乗り越えて力強く発展されることを願ってやみません。

前JATA関西支部兵庫地区会代表幹事
日本交通公社 松岡勝哉